

群れ

聖書の中には「群衆」がよく出てきます。この言葉を通して、一体何を語ろうとしているのでしょうか。

イエスさまの受難の物語では、群衆はイエスさまを捕まえるためにやって来ます。そして、ピラトに対してイエスさまを十字架につけるように要求します。

しかし、別の場面ではイエスさまにつき従い、むしろ、イエスさまの語ることを聞くようとして集まってくる。このように、イエスさまに好意的な態度を示

します。このように、イエスさまに好意的な態度を示

していた群衆は、イエスさまの受難の物語では登場しなくなります。イエスさまはもはや、手の届かない所にいたのです。群衆にとって真の指導者は、常に自分たちのすぐそばにいて、いつでも助けを求めることが出来るものです。

ところで、当時の群衆は、どのような状態に置かれていた人たちでしょうか。イスラエル史には、アム・ハ・アレツと呼ばれる「地の民」がよく出てきます。「地の民」は、イスラエルにおいては、下層の階級に属し、常に圧迫されていた人たちでした。聖書では、罪人とか、病人とか、遊女とか、徴税人と呼ばれて

いる人たちです。この人々は市民権を得ることなく、
社会のかたすみでほそぼそと生活していました。

この人々にとって、イエスさまはまさに救いの神で
した。見捨てられたような生活をしていたのに、自分
たちも一人前の人間として対等に言葉をかわし、一緒
に食事をし、手を触れてもらえたのです。これこそ
人々が待ち望んでいた出来事でした。

自分がこの人たちと同じ立場にいたら、どのような
気持ちで、イエスさまのことを受け入れたか考えて、
空白に書いて下さい。

